

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第2回 都市整備部会
日時	平成22年10月22日（金）午前9時30分から午前11時30分
会場	長野市役所第二庁舎10階会議室17
出席者	作業部会員 （敬称略）
	関係課員

会議次第

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 部会長・副部会長の選出
- 4 部会長・副部会長あいさつ
- 5 会 議
 - （1）市民フォーラム21 都市整備部会 ワークショップについて
 - （2）第四次長野市総合計画 前期基本計画の現況と課題について
 - （3）都市整備分野の質疑及び意見交換等について
- 6 その他
 - （1）今後の予定について
 - （2）事前課題シートについて
- 7 閉 会

会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 部会長・副部会長の選出
部会長は石澤孝部会員、副部会長は吉田織栄部会員
- 5 会 議
 - （1）市民フォーラム21 都市整備部会 ワークショップについて
資料のとおり了承され、実施することとした。
 - （3）都市整備分野の質疑及び意見交換等について
 - （1）この作業部会では、何を検討するのか。第四次長野市総合計画の基本構想は、基本的に変更せず、後期基本計画について、審議会で策定するための都市整備分野のもとになる考え方をこの部会でまとめるのか。基本施策名・施策名及びその取組等の文章まで作るのか。
審議会では総合計画全体の審議を行う。この作業部会では、後期基本計画の都市整備分野の原案について、基本施策名も、施策名も含めて作ることになる。それを審議会へ諮り、調整後、それをまた部会で再調整することを予定している。
 - （2）総合計画の基本構想関係資料では、人口が合併後38万人だが、少しずつ減っていく見通しになっている。都市の勢いや都市の将来を切り開いていくには、ある程度、人口は増えていくことを前提とすべきではないか。人口増の対策と都市整備は切り離せない。例えば、長野市は、転勤族が多い。転勤して住んでみて、長野のまちの快適度、住みごこち等がすごく素晴らしかった場合、リタイア後にまた戻ってくることによって、人口が増える。独自に、

人口が増えるための施策をたてるような、大きなデザインが必要ではないか。

人口については、第三次総合計画が終わるまでは、ある程度右肩上がり伸びていくものとし、いろいろな施策で増やしていこうとして目標を定めてきた。しかし、現在の第四次総合計画を作った平成 19 年時には、人口が右肩上がり増えることが、現実的には大変難しい状況で、人口推計をしている。一定の推計値を出し、あえて何人にしたいという目標にはしていないが、人口を増加させることは、都市の活力・賑わいに大変重要なので、いろいろ施策を講じ、推計人口を下回らないようにすることを目標としている。

- (3) 日本の人口が増えていなくても、魅力度や快適度のある都市に人口が集まっていく。これから、地方分権・地域主権により、独自の施策や都市整備をいかにやるかにより、どこに人口が集まっていくかという都市間競争になる。これまでのように、縦割り行政の中で、同じようなまちづくりの時代ではなくなる。パイの取り合いになる。

具体的にどうしていくかは、これからのワークショップ等での議論となる。ただし、市としては、人口がどんどん減ることを仕方ないという意識ではなく、全体として少なくなる中で、いかにして少しでも吸収していくのかについても考えている。

パイの取り合いの時に、いかにしてその減少の度合いを少なくするのが課題になる。人口が減少している現実を踏まえて、どうするのかという議論になる。

- (4) 人口の増加は、都市整備とは切り離せない。長野市に魅力があれば、人口の増加につながるし、まちに活気がないと、総合計画にある、「多様な都市活動を支える快適なまち」ではなくなる。この都市整備部会のほかに、産業・経済部会があり、その部会で検討することも、都市づくりと切り離せない。要望があれば、産業・経済部会など、他の部会と合同で部会を開催することができることを念頭に置いて欲しい。

まちづくりに大切なのは、人口の問題もあるが、産業振興もある。商業・産業を活性化することで、雇用や人口増につながる。不況で大変な状況でも、10 年先くらいを見て、積極的に PR し、企業・産業を誘致することが必要ではないか。雇用がうまると、少子化で人口が減っていく状況でも、外部から人が集まる。この都市整備部会は、産業・経済分野と密接に関係するので、一緒に検討できれば良い。

都市基盤がないと、産業の活性化ができない。議題によっては、ワークショップに産業関係の市の課長に出席してもらうことが必要になる場合がある。

今後の議論で、最大限、関係職員がこの部会に出席し、十分な深い議論ができるように配慮したい。合同部会は、作業部長同士で、調整のうえ、当然あり得る。必要な情報は、部会が違って、事務局から他の部会に情報提供をしながら、情報の共有が図れるように進めたい。

- (5) 最近のいろいろな社会的・経済的問題があるが、都市の在り方が、基盤も含めて、非常に重要になってきている。産業振興や生活者の基盤、生活しやすくするためのベースになる重要な部会が、この都市整備部会ではないか。中心市街地は、商業の問題が欠かせないし、市街地の人口が増加しないと、まちなかば活性化しない。また、最近、買い物弱者という言葉がよく使われるようになっており、郊外の新興住宅でも高齢化が進み、買い物すら、ままたまな状況が出てきている。こういった問題は、まだ解決策が見えてきていないので、先進的に長野市が取り組むことも必要ではないか。産業、生活、いろいろな分野の土台として、この部会で検討できれば良い。
- (6) 最近、いろいろな弱者ということが言われており、それを解決する方策が都市計画の在り方ではないか。従来は、道路やハコモノを作るのが都市計画であり、道路やハコモノを作ったら、それをどう利用してもらうのかという観点が欠けていた。この観点を解決するための一つの方法が公共交通ではないか。根本的な、今までの発想にないようなことをこの部会で

議論していきたい。

- (7) 後期基本計画は、審議会で平成 23 年度に答申だが、作業部会で検討した内容が、並行して施策として実施されていくのか、答申を待たないと実行段階に移らないのか。
後期基本計画は、平成 24 年度からスタートするので、平成 24 年度当初予算から、この計画が実行に移り、平成 28 年までとなる。
- (8) 総合計画の基本計画の実施計画を作るのは、市になる。実施計画で、いかに基本計画の概要を実践してもらえるかどうか問題で、常識にとられない発想で、長野市らしい実施計画までつながっていけば良い。議会を通らないといけませんが、市として、学識経験者も市民も入ったこの部会で検討したことに、ぜひ積極的に取り組んでもらいたい。
職員だけで計画を作らず、市民から意見を聴取し、その意見をどう反映し、実行に移していくのかを検討するために、この部会を設けている。ただし、財政的に限りがあるので、都市整備分野でいろいろ良い意見が出て、全部実行する場合、他の分野を削らないとできないことになる。ワークショップ等で、いろいろな意見を聴取することを主眼としたい。
まちづくりとは、企画、都市計画、産業の三者で走るものではないか。
- (9) 現在の長野市のまちの状況、これだけの平地で、どう都市計画を立てて、どのくらいの規模が適正なのかということが当然ある。単に、産業振興を図って、人口を増やし、活気・賑わいを増大させれば良いのではないのではないかと。現時点でのまちづくりを考えると、人口が減少していく状況で、いかに住みやすい環境を作るかに力点を置いて検討していくべきではないか。また、公共交通としてのバスも、今のマイカーが中心となっている交通体系では、じり貧になっていく。乗合タクシーなどの場合は、既存のタクシーに非常に影響を及ぼす。市の財政的な負担も増えていく。いろいろな意見を出したい。
- (10) 長野市のまち全体の目標として、中心市街地の再生が挙げられているが、具体的には、学生が住む地域、善光寺や松代等の観光地、市民が居住している場所等がメリハリをつけて、分かれてある方が良いのか、それとも混在している方が良いのか。
土地利用からすると、現実には、いろいろな混在がある。
また、学生が楽しめるまちが、どういうものなのか意見を聞きたい。観光地に関連して、外から来ている人に聞いてみると、長野は非常に自然が豊かで、目の前にあるが、気づいていないという話があるので、長野市の良さを再認識できれば、居を構える人も出てくるのではないかと。
従来の都市計画は純化だが、純化は見直し、混在も部分的には必要だろう。そういった発想も、この部会で取り入れていきたい。
- (11) 産業・経済分野よりも、防災・安全分野と連携した方が良いのではないかと。
今後のワークショップ等の議論で方向性が固まっていこう。
- (12) 市の都市整備や都市計画を考えた場合に、様々な課題がある。今ある課題を改善していく計画と、同時に 10 年先、30 年先、今の子どもたちがここで暮らしていくときのまちの検討が必要ではないか。例えば、中山間地域の問題等があるが、中山間地域をどうするのか、10 年後、20 年後、どういう形にしていくのか。今、インフラを整備した時に、10 年後、あれは何だったのかと言われても困るだろうが、中山間地域や弱者への支援はしなければならぬ。市のグランドデザインをどうしていくのか、長期の基盤整備としての計画と、短期的にできる計画と、2 通りを考えなければならない。
- (13) 夢を語り、計画の中に盛り込めるのが、この総合計画なので、ぜひ、夢を語りながら、現状は市からの説明により、摺り合わせ、計画を策定できたら良い。
- (14) 遠慮せずに、忌憚のない意見を出し合い、最終的に長野市民にとって良いものができるように議論していきたい。

(15) 基本にあるのは、自分の生まれた長野市をより良いものにしていきたいということ。この想いはとても強くあり、今まで暮らしてきた所と比べて、長野県はどうしてしまったのかという感じがあるので、そのギャップを埋めていければ良い。夢を語り合いながら、現実を見据え、今後の長野市を作っていけたら良い。

6 その他

(1) 今後の予定について

(1) 今後の日程について、「日程は予定であり、変更となる場合があります。」とあるが、どういった場合か。

基本的には、この日程で開催するが、部会員の欠席が多い場合には、会議を開催することができなくなるので、変更の可能性はある。会議の欠席の連絡は、会議開催1週間前を目途とする。

(2) 資料がたくさんあるため、会議で必要になる資料は指定して欲しい。

適宜指定し、事務局に予備を用意する。